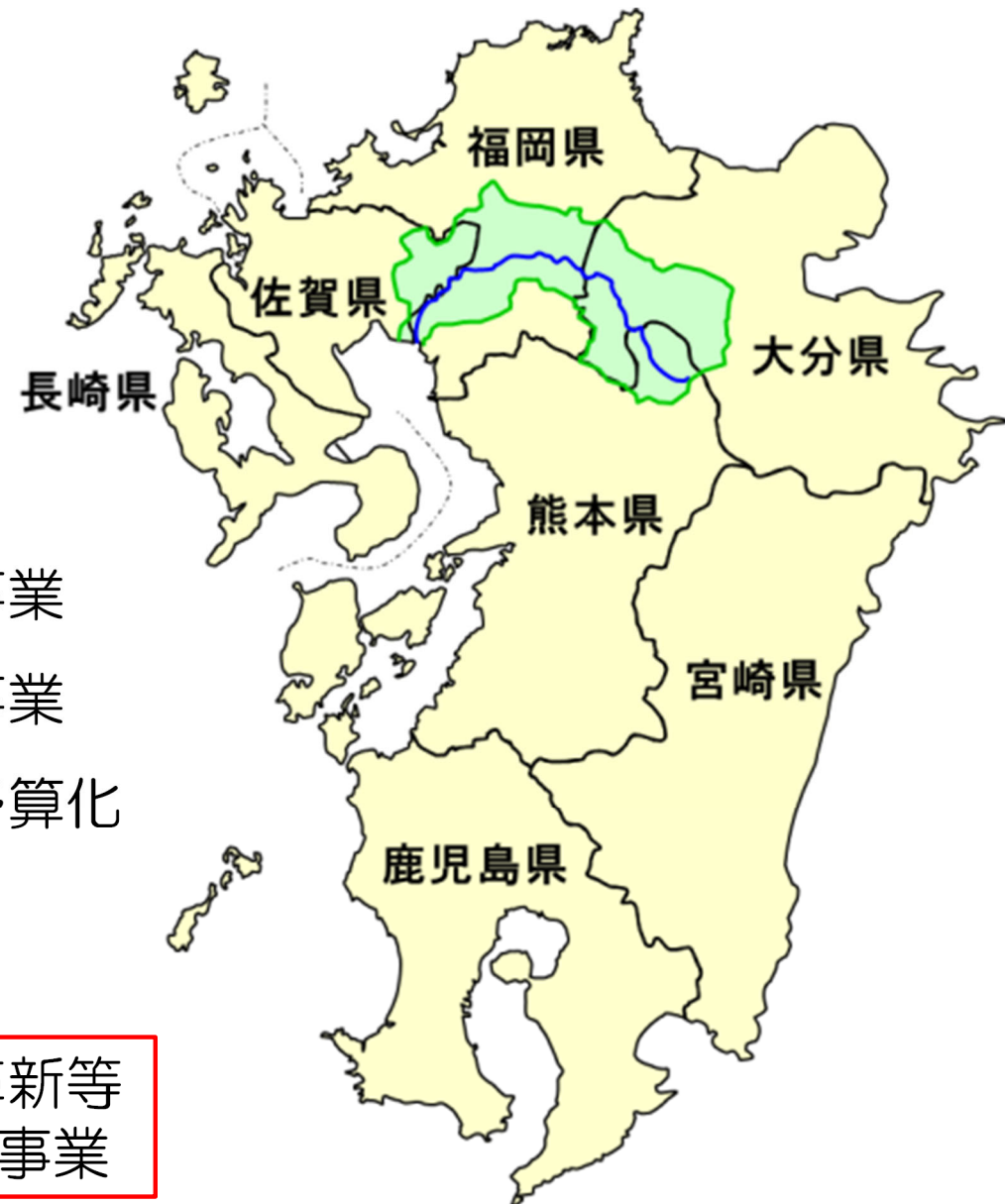


ちくご 筑後川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

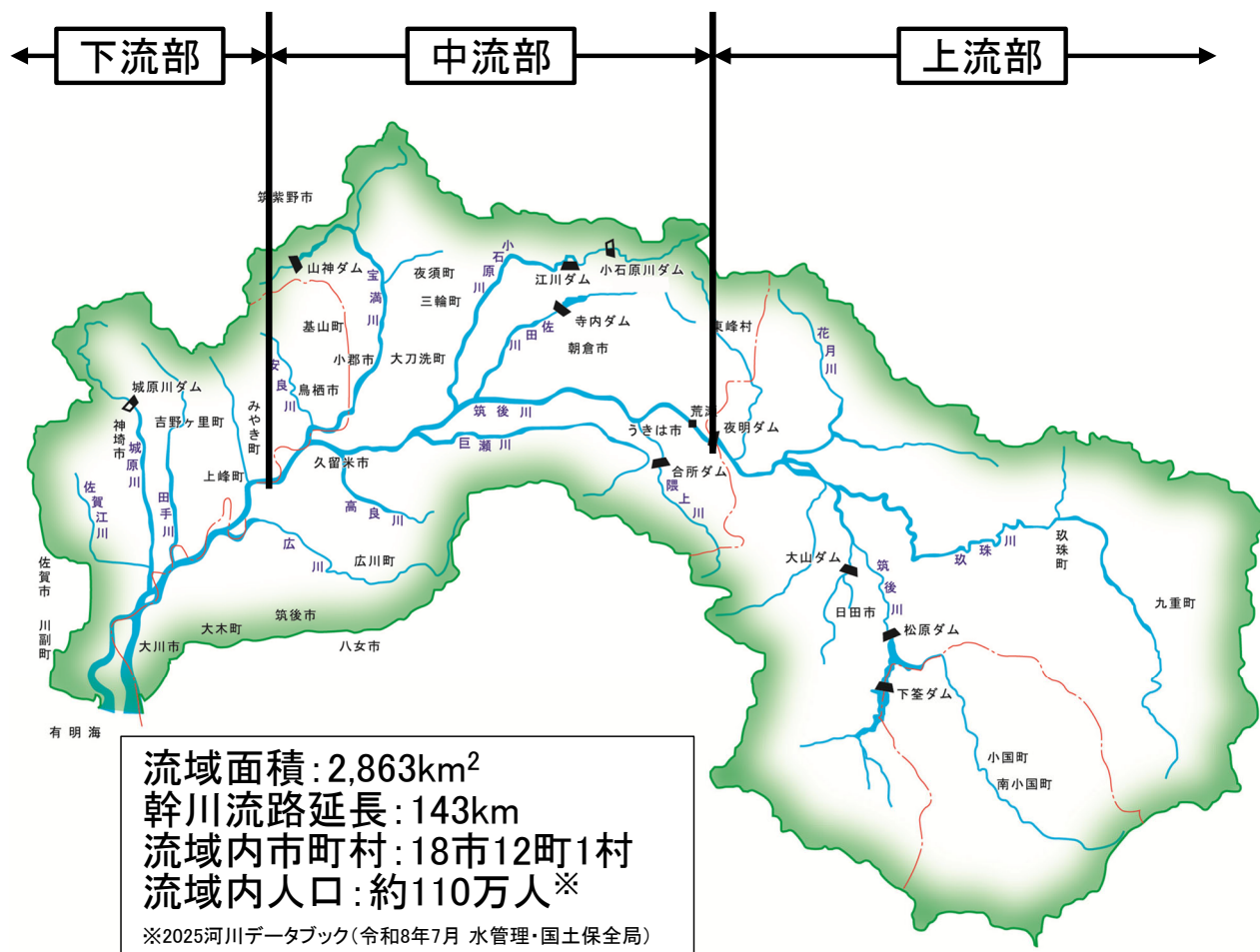


1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

流域の概要

- 筑後川の源は熊本県阿蘇郡瀬の本高原に発し、流域は熊本県、大分県、福岡県、及び佐賀県の4県にまたがる。上流域に日田市、中流域に久留米市及び鳥栖市、下流域に大川市及び佐賀市等の主要都市があることから、九州北部における社会、経済及び文化活動の基盤をなし、古くから人々の生活及び文化と深い結びつきを持っている。



<上流部(夜明ダム～上流端)>

- ◆ 日田美林として知られるスギやヒノキからなる森林に恵まれた山間渓谷を形成している。

<中流部(筑後大堰～夜明ダム下流)>

- ◆ 巨瀬川合流点から夜明峡谷までの区間は、九州を代表する穀倉地帯である筑紫平野を緩やかに蛇行しながら流下している。瀬、淵、ワンド及び河原等の多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を形成している。

<下流部(河口～筑後大堰)>

- ◆ 広大な沖積平野及び干拓地の中を大きく蛇行しながら有明海へと注いでいる。国内最大の干満差の影響を受け約23kmに及ぶ長い区間が汽水域となり、広大な干潟が形成されている。多様な生物が生息・生育する「有明海および筑後川河口」は、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地『重要湿地』(有明海および筑後川河口)」に認定されている。

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

- 気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、これまでの治水対策に加え、流域全体のあらゆる関係者が協働して、水害を軽減させる治水対策、「流域治水」へと転換し、ハード・ソフト一体の対策に取り組むため、令和2年9月に「筑後川流域治水協議会」を設立、「筑後川流域治水プロジェクト2.0」を策定し流域治水対策を推進している。
- 今後短期的な取組として進める「大石地区かわまちづくり」「杖立温泉かわまちづくり」では概ね10年間で賑わいのある水辺を創出するなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取り組みを推進することとしている。



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

グリーンインフラの取り組み

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

- うきは市は、「第3次うきは市総合計画 基本構想・前期基本計画(素案)(R8.3)」にて、筑後川を耳納連山とともに市のランドマークとなるシンボルとして位置付けており、関係機関との協働で河川浚渫や流域治水対策に継続して取り組み、災害リスクを軽減する計画的な河川整備を進めることとなっている。
- 小国町は、「第6次小国町総合計画【後期基本計画】(R8～R12)(令和8年3月)」にて、主要取組事業の一つに「魅力ある河川環境の創出」を掲げ、流域が一体となった魅力ある河川景観の創出を図ることとしている。



市道の整備(うきは市/大石地区)



魅力ある河川環境・景観(小国町/杖立温泉)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2) 地域の協力体制/大石地区

- 平成30年8月に地域住民・うきは市・国土交通省等により構成された「大石かわまちづくり実行委員会」、平成30年11月には、「大石かわまちづくり協議会」を立ち上げ、かわまちづくり計画の検討を進め、令和2年3月にかわまちづくり支援制度に「大石かわまちづくり」が新規登録された。
- かわまちづくり支援制度の登録後も、整備内容や周辺の利活用、維持管理に関する協議を継続的に開催する予定としており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。
- 令和元年9月からは「大石かわまちづくり作業部会」や地元団体の企画のもと、音楽ライブを中心としたイベントや、かわあそびイベント、ランタンフェスなどを継続的に開催している。今後も、地域の若い世代の方々や温泉関係者等を加え、地域と連携した多様な利活用メニューを実践していく予定である。

【承認組織】

大石かわまちづくり協議会
(実行委・市長)



【実践組織】

大石かわまちづくり実行委員会



利活用計画、整備計画の検討

大石かわまちづくり作業部会
(NPO うきはのあん 等)

社会実験の企画・運営
社会実験を通じた利活用、整備
の具体的検討

組織体制図



うきはは大石かわまちフェスタ2025
(カヌー・SUPレース等、アユつかみ取り・
BBQ等)
(令和7年9月28日、300名参加)

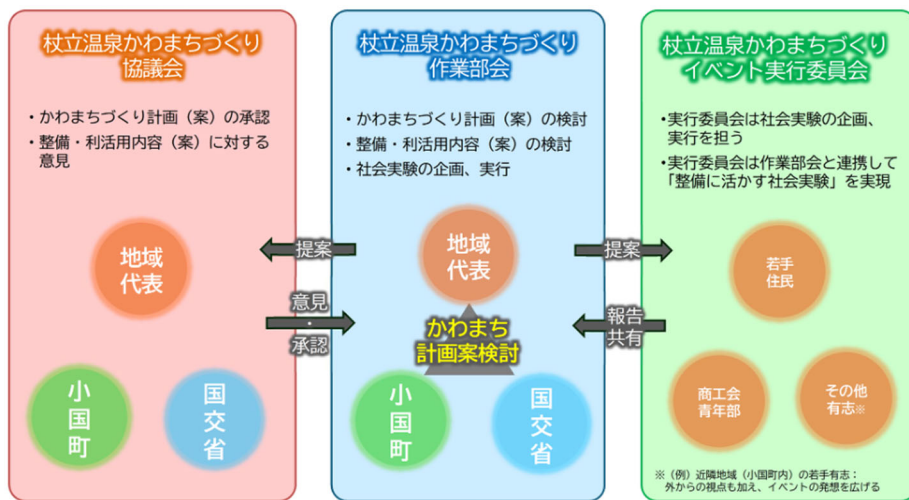


うきははランタン
(ぜんざいの振る舞い、焼きマシュマロ、テント
サウナ、屋台、ランタン作り等)
(令和8年2月21日、360名参加)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(2) 地域の協力体制/杖立温泉

- 令和7年度に、観光協会、旅館組合、漁業協同組合、商工会、消防団、町議会、九州電力(株)日田水力センター、小国町、筑後川ダム統合管理事務所等から構成した「杖立温泉かわまちづくり協議会」、「杖立温泉かわまちづくり作業部会」、「杖立温泉かわまちづくりイベント実行委員会」の3つの組織を設置した。
- 「杖立温泉かわまちづくり協議会」や「杖立温泉かわまちづくり作業部会」で利活用・維持管理に関する計画の検討を実施し、それらの試行としての社会実験等について「杖立温泉かわまちづくりイベント実行委員会」が企画・実行を担う。
- 利活用メニューの実現性把握や新たな魅力発見のために、令和7年9月27日、令和8年2月22日に社会実験を行い、多数の住民・観光客が訪れた。今後も定期的に社会実験を行い、継続可能性や民間活力の導入等を検証したうえで、河川空間のオープン化についても検討する。



かわまちづくりの検討体制



川deあそびナイト2025
(川遊び、マルシェ、川床)
(令和7年9月27日、500名参加)



川端deさがナイト2026
(ライトアップ、マルシェ、川床)
(令和8年2月22日、400名参加)

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3) 関連事業との整合/大石地区

【第3次うきは市総合計画 基本構想・前期基本計画(素案)/R8.3策定】

➤ 豊かな自然や歴史文化、棚田や森林環境を磨き上げ、体験型観光や滞在型観光を推進する。

2-2 BASIC GOAL 2

地域資源の活用

時代にふさわしい、新たな産業と技術を活かすまちづくり

現状	課題
宿泊需要の拡大 ● 市内に宿泊施設が増加しており、宿泊施設を紹介するサイトの整備や宿泊者を対象としたキャンペーンの実施などに取り組んでいます。	● 福岡都市圏から1時間というアクセスの良さもあり観光入込客数は堅調ですが、多くの来訪者が日帰りでの滞在となっています。
文化財と歴史資源の活用 ● 屋形古墳群の整備や伝統的建造物群保存地区の町並み保全など、歴史文化を活かした観光振興を進めています。	● 歴史的建造物の所有者や行政組織を含めて長期的に持続可能な体制の構築が課題です。
自然環境を活かした取組 ● 森林セラピーや棚田オーナー制度など、自然や農業資源を体験につなげる取組が展開されています。	● 現在関わっている地域外の担い手も高齢化しており、自然環境を維持する担い手の確保が求められています。
観光データ活用と情報発信 ● 観光データの収集やデジタル技術を活用し、観光の魅力発信や効果検証に取り組んでいます。	● 観光データの効果検証や次の戦略立案への活用が十分ではありません。
観光事業者の協働促進 ● DMOを中心に、観光関連団体との定例による情報共有や意見交換を行っています。	● 定期的に情報共有や意見交換を行っています。が、効果的な新規施策や取組に繋がっていません。



今後の取組	指標	
● DMOと連携し、平日やオフシーズンの集客の増加に取り組むとともに、宿泊者限定の商品開発などに取り組む事業者を支援します。	市内温泉施設の宿泊者数(人)	
	令和6年度(実績値)	令和12年度(目標値)
	30,454	33,000
● 地域と協働して古墳群や伝統的建造物群の価値が今後も損なわれることのないよう適切な保護と保存に努めます。	文化財保存整備率(%)	
	令和6年度(実績値)	令和12年度(目標値)
	34.4	41.4
● 外部の企業や人材を取り込むなど持続可能な体制の確保に努め、農地や森林など多様な自然環境の利活用や景観等に配慮した維持保全を図ります。	定期的に自然環境の維持に関わる外部の企業や人材数(組)	
	令和6年度(実績値)	令和12年度(目標値)
	7	10
● 観光データやデジタル技術を活用し、新たな誘客の取り組みやサイト・SNSでの発信強化を行います。	観光情報専用 SNS アカウントの総フォロワー数(人)	
	令和6年度(実績値)	令和12年度(目標値)
	3,011	10,000
● 宿泊事業者や交通事業者、観光ガイドなど様々な事業者や団体と連携して、来訪者の満足度向上に向けた効果的な取組を推進します。	観光満足度(%)	
	令和6年度(実績値)	令和12年度(目標値)
	66.1	70.0

5年後に目指す姿

豊かな自然や歴史文化、棚田や森林環境を磨き上げ、体験型観光や滞在型観光を推進します。
文化財と歴史的風致を守りながら、市内事業者や地域と協働し、うきは市ならではの魅力を持続可能な仕組みで発信し、交流人口と地域活力の拡大を実現します。

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(3)関連事業との整合/杖立温泉

【阿蘇くじゅう観光圏整備計画/R5.3】

- 杖立温泉を、観光の中心となって宿泊の魅力向上に取り組み、各地域への人の流れを生み出す「滞在促進地区」として、位置付け。

【第3期小国町まち・ひと・しごと創生総合戦略(2025～2029年度)/R7.3】

- 「観光・交流による地域経済の浮揚と地域づくり」を基本目標の一つとして設定し、小国町内観光関係団体の活性化や観光振興による観光入込客の増加を図ることとしている。

【第6次小国町総合計画後期基本計画/R8.3】

- 杖立川(杖立地区)においては、治水対策を進めるとともに、河川環境に配慮した整備を行い賑わいのある水辺空間を創出できるよう国や県等と協力する。

【滞在促進地区と交流地区の位置図】



阿蘇くじゅう観光圏整備計画/R5.3

基本目標Ⅰ：地域の資源を活かした、循環型の社会と産業づくり

※ 地熱とバイオマスを活かした農林業タウン

基本目標Ⅱ：働く環境づくり（人・場所）と事業の継続

※ 担い手支援と働き方支援

基本目標Ⅲ：観光・交流による地域経済の浮揚と地域づくり

※ 滞在型・体験型の観光地づくり・小国暮らしの支援

基本目標Ⅳ：安心して子育て・生活が出来る環境づくり

※ 安心の子育て支援 老後の不安解消

横断的な目標：時代の潮流の沿った誰ひとり取り残さないまちづくり

※ 地方創生SDGsの実現など持続可能なまちづくり

※ 新技術やデジタル技術の活用

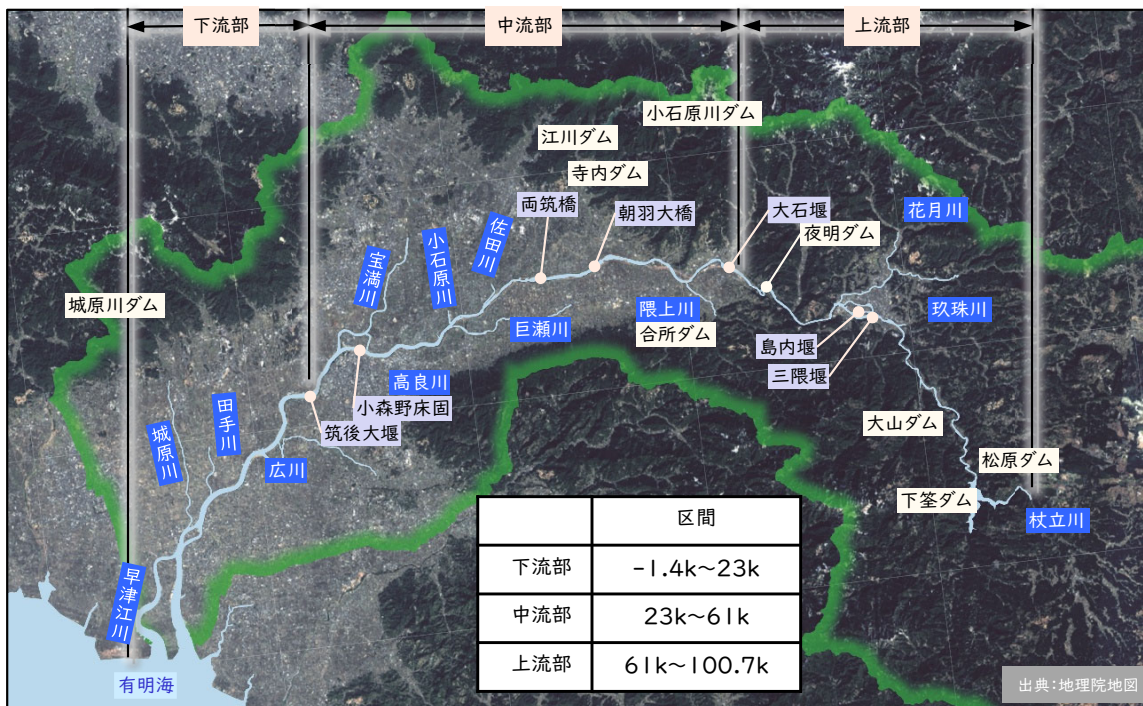
主要事業

主要取組事業	取組内容
1. 国道・県道の整備	国道212号南小国～阿蘇方面及び小国～日田方面、県道北里宮原線など計画的な整備を国や県等に要請していきます。 併せて、県や関係機関と連携して児童生徒や高齢者等、歩行者の安全確保のための取組を進めていきます。
2. 町道の整備	現在、改良工事を行っている路線について、早期の完成を目指すほか、緊急時の避難経路となる路線や観光、産業に対して重要な路線についても計画的な整備を進め、町内の道路環境の改善を図っていきます。
3. 交通安全施設の整備	平成27年度に設置された「小国町通学路安全推進会議」を中心として、歩行者に問題がある箇所の解決のため、関係する機関ごとに対応していきます。そうすることで、早期の改善を進めます。また、道路構造物の老朽化対策として、定期点検を実施し問題点の早期発見することで、通行の安全・安心を確保していきます。
4. 魅力ある河川環境の創出	河川改修を進め、水害対策に努めるとともに、住民参加による河川浄化の取組を通して、流域も一体となった魅力ある河川景観の創出を図り、郷土の川に対する愛着心の育成に努めます。 また、杖立川(杖立地区)においては、治水対策を進めるとともに河川環境に配慮した整備を行い賑わいのある水辺空間を創出できるよう国や県等と協力していきます。

1. 事業の必要性 ①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(4) 河川環境をとりまく状況

- 筑後川には様々な貴重種が生息しており、上流部には、絶滅危惧種のヤマセミ、カワムツ、アユ等が生息する。中流部には、絶滅危惧種のオヤニラミ、コアジサシやセボシタビラ等が生息する。下流部には、絶滅危惧種のエツ・アリアケシラウオ・アリアケヒメシラウオ等が生息する。
- 筑後川はアユやエツの生息場、産卵場となっており、アユ釣り・鵜飼い・エツ漁等、地域の観光資源となっている。
- 動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出については、河川環境の重要な要素である土砂動態等を把握しながら、重要種を含む多様な動植物を育む瀬・淵やワンド、河岸、河畔林、湿性地等の定期的なモニタリングを行いながら、新たな学術的な知見も取り入れ、生物の生活史全体を支える環境を確保する。



筑後川上流部 (61k~100.7k)



ヤマセミ



カワムツ



タマタカ



カンカガエル

国内希少野生動植物種

筑後川中流部 (23k~61k)



セボシタビラ



オヤニラミ

国内希少野生動植物種

筑後川下流部 (-1.4k~23k)



エツ



アリアケシラウオ



アリアケヒメシラウオ

国内希少野生動植物種



カヤネズミ



ゴアジサシ

1. 事業の必要性

①事業を巡る社会経済情勢等の変化

(5) 河川の利用状況

- 筑後川は、松原・下釜ダム等の湖面を利用した遊覧船運航や地域交流のイベント、日田温泉・筑後川温泉及び原鶴温泉等の観光地における屋形船、鵜飼い、杖立温泉街の鯉のぼり祭り、河川敷等における散策やスポーツ、マラソン大会、花火大会、河川内における水上スポーツ、カヌー等の練習、下流でのエツ漁等、多岐に利用されている。
- 筑後川は、住民団体や小中学生による生物調査や水質調査等の環境学習活動の場として利用されており、くるめウス等の防災施設を平常時に活用し、情報発信、学習支援及び交流促進を推進している。



湖面を利用した遊覧船(松原ダム)



屋形船(日田市)



散策(うきは市)



筑後川花火大会(久留米市)



鯉のぼり祭り(杖立温泉)



環境学習活動(久留米市/防災施設くるめウス)

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

(1)費用対効果分析(水系全体)

項目	前回評価時(令和7年度)	今回評価時(令和8年度)	変更理由
総事業費	約7.0億円 【水辺整備】 久留米市街部地区(H27年度～R4年度):約 1.2億円 大石地区(R3年度～R11年度):約 5.7億円	約14.7億円 【水辺整備】 大石地区(R3年度～R11年度):約5.7億円 杖立温泉(R9年度～R20年度):約9.0億円	完了評価済み整備事業の事業計画からの除外による事業費の削減及び便益の変更
事業完了年	令和11年度	令和20年度	集計世帯数の更新による便益の変更
B/C	13.0	3.8	現在価値化による更新
B(便益)	125.4億円	50.7億円	水辺整備事業の新規事業(杖立温泉)による事業費の増加
C(費用)	9.6億円	13.4億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせることで算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせることで算出する。

※令和7年度より、工事諸費を除いた額を「C(費用)」として算出

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

(2)費用対効果等

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C	EIRR
全事業	14.7億円	—	50.7億円	13.4億円	3.8 ※社会的割引率 2%の場合:5.9 1%の場合:7.4	11.5%
継続箇所	5.7億円	—	22.5億円	7.8億円	2.9	—
大石地区	5.7億円	高水敷整正、管理用通路	22.5億円	7.8億円	2.9	—
新規箇所	9.0億円	—	28.2億円	5.6億円	5.0	—
杖立温泉	9.0億円	高水敷整正、管理用通路、親水護岸、多目的スペース、転落防止柵、モニタリング調査等	28.2億円	5.6億円	5.0	—
残事業	9.1億円	—	28.7億円	5.7億円	5.0 ※社会的割引率 2%の場合:8.2 1%の場合:10.7	12.9%
継続箇所	0.14億円	—	0.49億円	0.14億円	3.6	—
大石地区	0.14億円	モニタリング調査	0.49億円	0.14億円	3.6	—
新規箇所	9.0億円	—	28.2億円	5.6億円	5.0	—
杖立温泉	9.0億円	高水敷整正、管理用通路、親水護岸、多目的スペース、転落防止柵、モニタリング調査等	28.2億円	5.6億円	5.0	—

	アンケート実施年度	項目	アンケート配布数	有効回答数	集計範囲	集計数	支払い意思額
大石地区	令和2年度	住民	2,000	350	半径10km圏内	29,627世帯	332円(月・世帯)
杖立温泉	令和8年度	住民	3,000	362	半径10km圏内	8,943世帯	718円(月・世帯)
		観光-日帰り	—	168	半径10km圏外	215,774人	519円(年・人)
		観光-宿泊	—	105	半径10km圏外	47,706人	438円(年・人)

1. 事業の必要性 ②事業の投資効果

<費用対効果等（感度分析）>

項目		基本ケース	感度分析					
			事業費		工期		資産	
			+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
全事業	便益:B (億円)	50.7	50.7	50.7	48.8	52.7	55.8	45.6
	費用:C (億円)	13.4	13.9	12.8	13.2	13.5	13.4	13.4
	B/C	3.8	3.6	3.9	3.7	3.9	4.2	3.4
残事業	便益:B (億円)	28.7	28.7	28.7	26.5	29.8	31.5	25.8
	費用:C (億円)	5.7	6.3	5.2	5.4	5.8	5.7	5.7
	B/C	5.0	4.6	5.5	4.9	5.1	5.5	4.5

○事業費、工期、資産がそれぞれ±10%に変動した場合のB/Cを算出した。
 ○すべてのケースでB/Cが1.0以上となった。

1. 事業の必要性

②事業の投資効果

①CVM手法による便益の算出

約50.7億円(良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等)

②地域資源を活かした教育効果

筑後川周辺の資源(大石堰、杖立温泉街等)を活かしたイベントや学習会の実施、筑後川と周辺地域を一体的に活用することによる地域への愛着の醸成

P4,5,9

③地域のにぎわいの創出

地域の既存イベントや新たな水辺イベントの開催の場の提供による地域活動の増進

P15,18

④治水安全性の向上

河川利用者の安全性・利便性向上、巡視・管理の円滑化

P15,18

⑤良好な自然環境の保全

地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動

河川を活用した環境学習等

P9,15,18,19,22

⑥費用対効果分析(算定に用いた効果)

全体事業(B/C):3.8

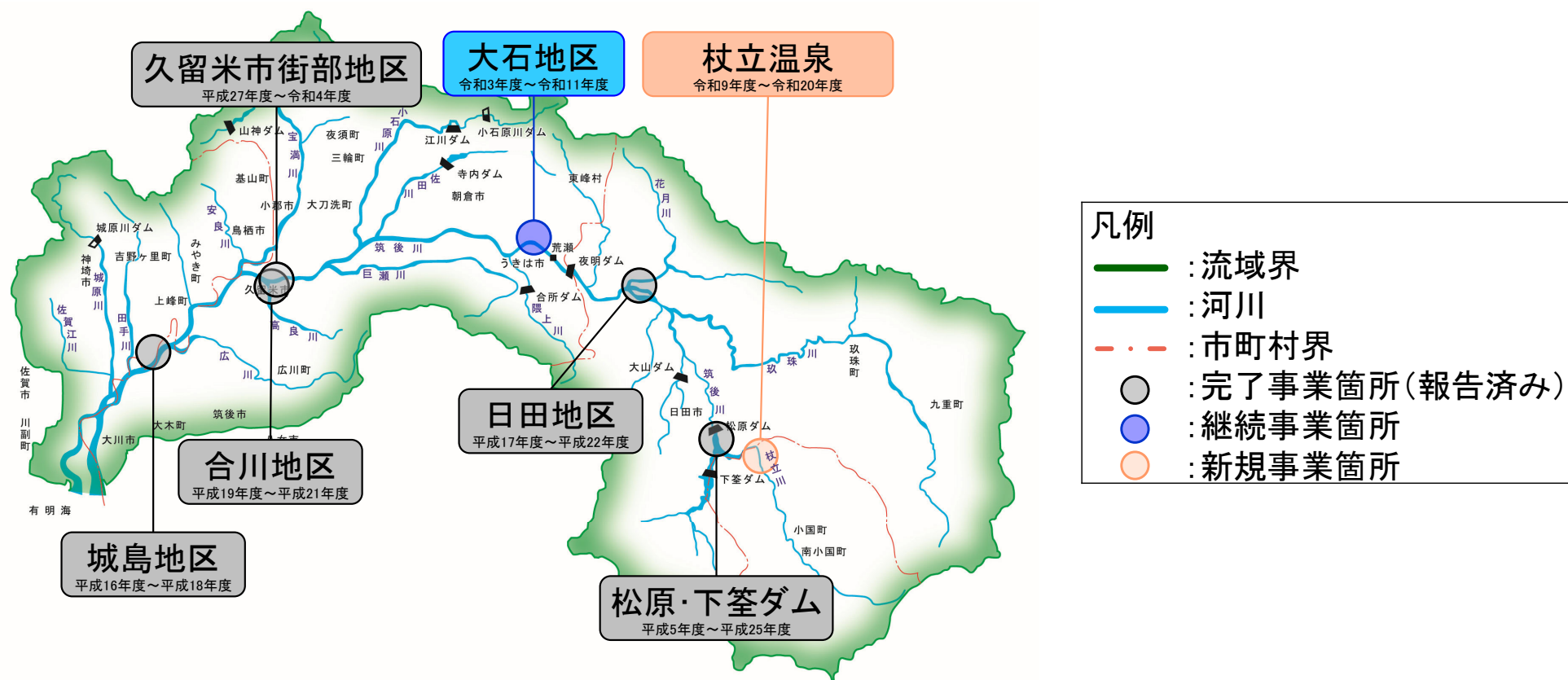
残事業 (B/C):5.0

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(1) 事業採択年・工事着手年

区分	箇所名	事業期間	備考
水辺整備	大石地区	令和3年度～令和11年度	継続箇所
	杖立温泉	令和9年度～令和20年度	新規箇所
筑後川総合水系環境整備事業		令和3年度～令和20年度	

※水環境整備(松原・下笠ダム)、水辺整備(城島地区、日田地区、合川地区、久留米市街部地区) は完了評価済のため、今後の事業計画には含まないものとする。



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(2)事業の進捗状況/大石地区(継続箇所)

1) 事業の必要性

- 当該地区は、水際の散策、大石分水路でのスポーツや「凧あげ大会」などのイベント、筑後川での環境学習等に利用されているが、通路幅が狭く散策や水際へのアクセスが難しい箇所があり、また高水敷の凸凹によりイベントや学習等の安全な利用に課題が見られる。

2) 事業の概要・目的

- 「雄大な筑後川と温泉地等を活用した、世代・地域を超えて にぎわうまちづくり」と、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図るため、管理用通路や高水敷整正等の整備を実施する。

【概要】

位置	筑後川 58k000～60k200付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	高水敷整正、管理用通路、坂路 等
事業費	約5.7億円
整備完了年	令和6年度
事業期間	令和3年度～令和11年度

【工程表】

工種	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
管理用通路									
坂路									
高水敷整正									
測量設計等									



1. 事業の必要性

③事業の進捗状況

3) 事業の現状

- 高水敷整正、管理用通路、坂路等の整備が行われ、安全で多様な水辺の利用が可能となったことから、継続的な地域の活性化に資するとともに、河川利用者の安全性の向上、河川巡視や河川管理の円滑化を図ることが可能となっている。
- 令和元年度より上記の整備を活用し、さらなる賑わい創出に向け、「大石かわまちづくり作業部会」や地元団体の企画のもと社会実験を実施し、今後の利活用の仕組みや、河川敷地占用許可準則第22による都市・地域再生等利用区域の指定の必要性を検討している。
- 整備対象箇所はうきは市が占有する予定であり、現在もうきは市及び地域住民により定期的な草刈りや清掃等の維持管理が行われていることから、地域の協力体制の下、整備完了後も継続した維持管理が見込まれる。

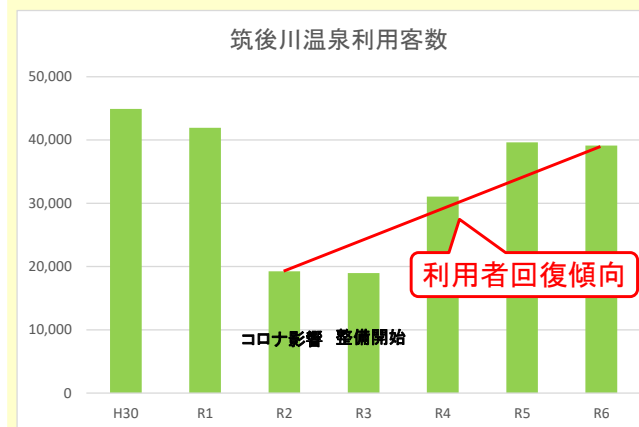
管理用通路



高水敷整正



周辺施設への観光客数の推移



※筑後川温泉利用客数の推移

・コロナの影響が見られる令和2年度に比べると、整備開始とともに回復傾向にあり、コロナ以前の利用客数と同水準まで回復してきている。

・今後も、川の利用者の安全性、利便性の向上、また、地域住民や観光客に快適な空間の創出を図るとともに、新たな活用メニューを提供することで、利用者を増加傾向に好転させる効果を期待する。



大石風揚げ大会（令和6年1月28日）
（管理用通路を駐車場として活用）



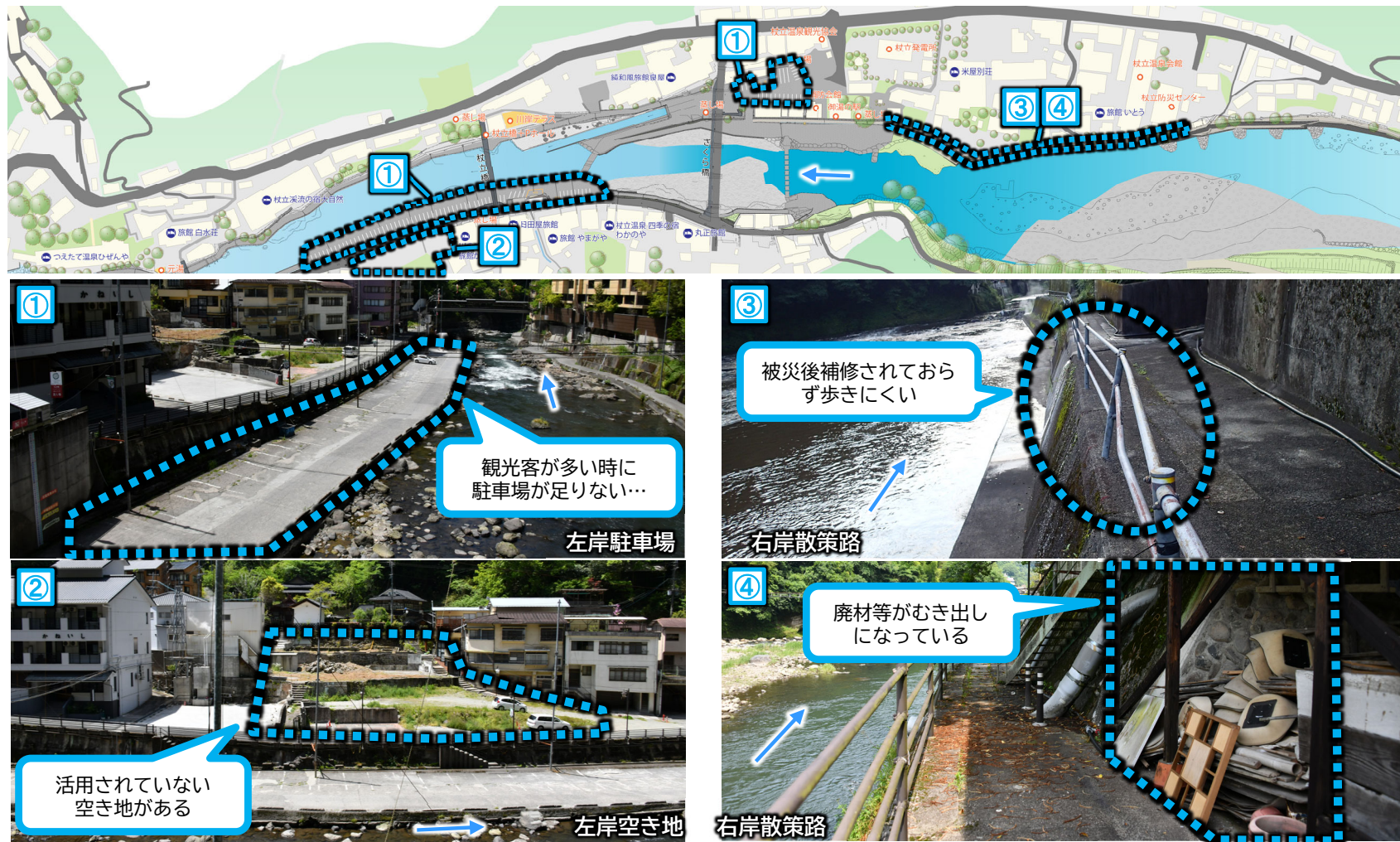
うきは市と地域住民による清掃活動

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

(3) 事業の進捗状況/杖立温泉(新規箇所)

1) 事業の必要性

- 杖立川沿いに情緒のある温泉旅館などが立ち並ぶ地域で、自然豊かな景勝地としても知られるが、近年頻発する豪雨による被害や、コロナ禍などの影響を受け、徐々に賑わいが減少している。また、観光客が多い時期の駐車場不足や、洪水による被災後の補修が追いついていない箇所があるなど、安全・安心・快適な利用への課題が見られる。



1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2) 事業の概要・目的

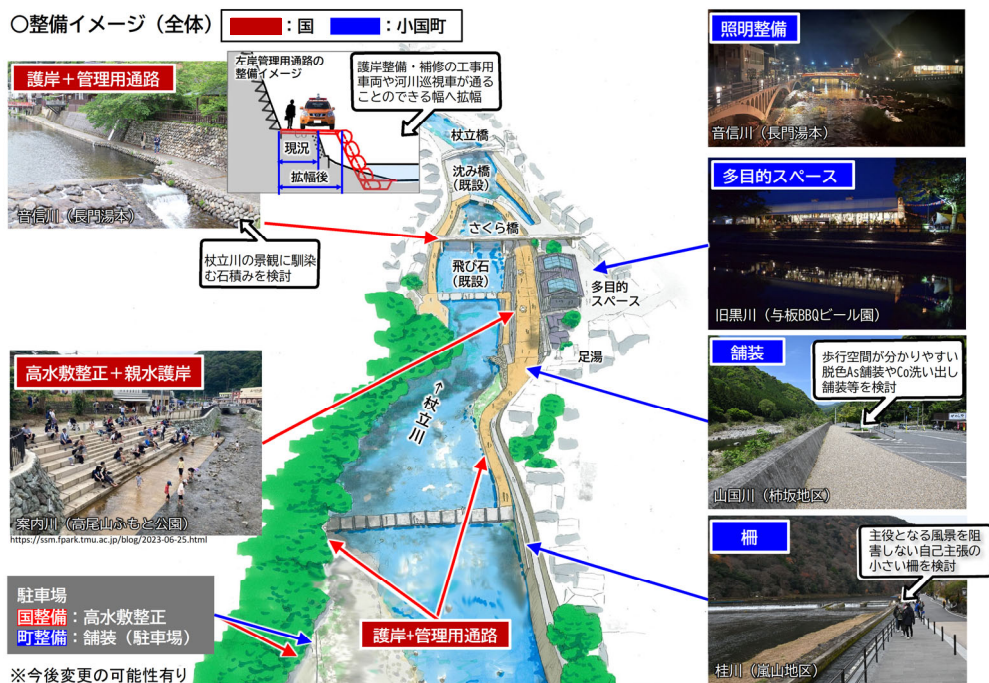
➤ 安全性や利便性、景観性を向上させた賑わいのある水辺空間創出に向け、地域・関係自治体・河川管理者等が知恵を出し合うことで、“まち”と“水辺”を繋ぎ、地域の持続的な活性化や、賑わいのある河川空間の創出に貢献することを目的としている。

【概要】

位置	杖立川 99k800～100k400付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	護岸、管理用通路、高水敷整正、親水護岸 等
事業費	約9.0億円(国6.7億円、小国町2.3億円)
整備完了年	令和15年度
事業期間	令和9年度～令和20年度

【整備イメージ】

○整備イメージ(全体)



【工程表(当初計画)】

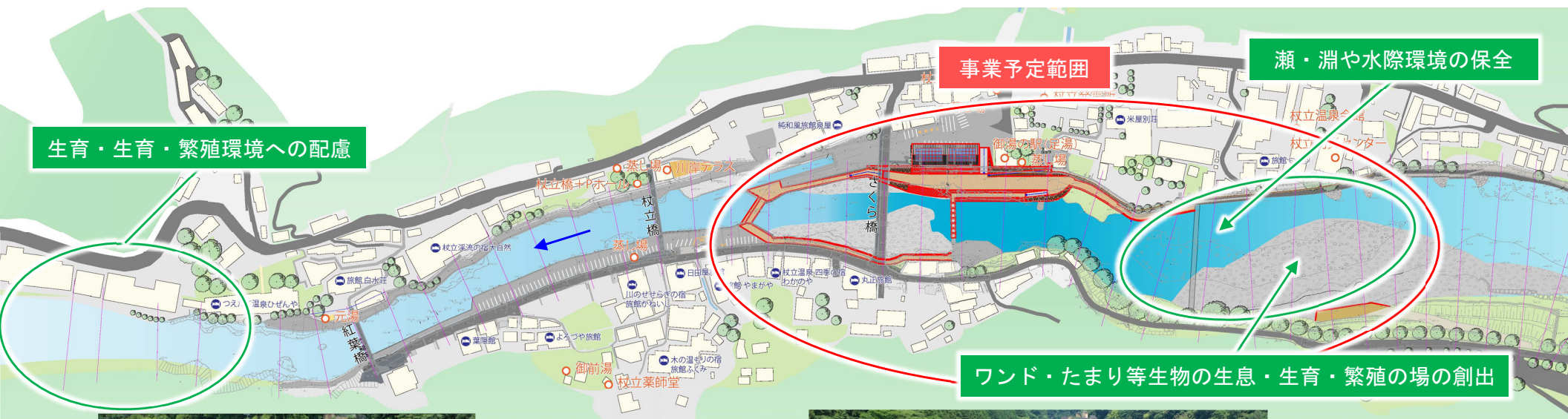
工種	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
調査・設計	調査・設計							モニタリング				
高水敷整正												
親水護岸												
護岸 管理用通路												

1. 事業の必要性 ③事業の進捗状況

2) 事業の概要・目的

【生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組】

- 事業予定範囲内には、上流部に瀬や淵、砂礫河原がある。魚類等の生息場となる複雑で多様な流れの環境を保全するとともに、ワンド・たまり等の生物の生息・生育・繁殖の場の創出を検討する。
- 事業予定範囲の下流部には早瀬環境がある。このため、整備を行う際には、必要に応じてこれらの環境保全に配慮する。



1. 事業の必要性

③事業の進捗状況

3) 事業の現状

【協議会、作業部会、実行委員会の活動】

- これまでに協議会を5回、作業部会を5回、実行委員会を6回開催し、現地確認やワークショップ等により整備メニューや利活用・維持管理計画の検討を実施している。
- 官民が連携したまちづくり先進事例の視察を作業部会等メンバーで行い、利活用を見据えた整備の方法や、継続した賑わいづくりのポイントについて研究している。



【杖立温泉×杖立川 社会実験イベント】

- 利活用メニューの実現性把握や新たな魅力発見のために、令和7年9月27日に第1回、令和8年2月22日に第2回目の社会実験を行った。
- 各回とも400～500人程度の来訪者数を記録し、賑わいづくりのポテンシャルを確認した。
- また、来訪者アンケートの結果からも検討中の整備メニューの方向性が妥当であることを確認している。

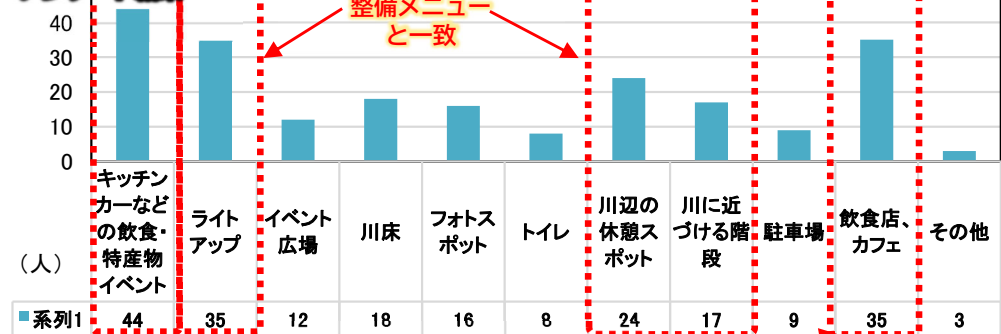
来訪者数推計



■ビッグデータによる推計来訪者数(20歳以上)は415人。

■アンケート結果等から19歳以下も含めて推測 ⇒ **約500人が来訪。**

アンケート結果



賑わいづくりを求める声

2. 事業の進捗の見込み

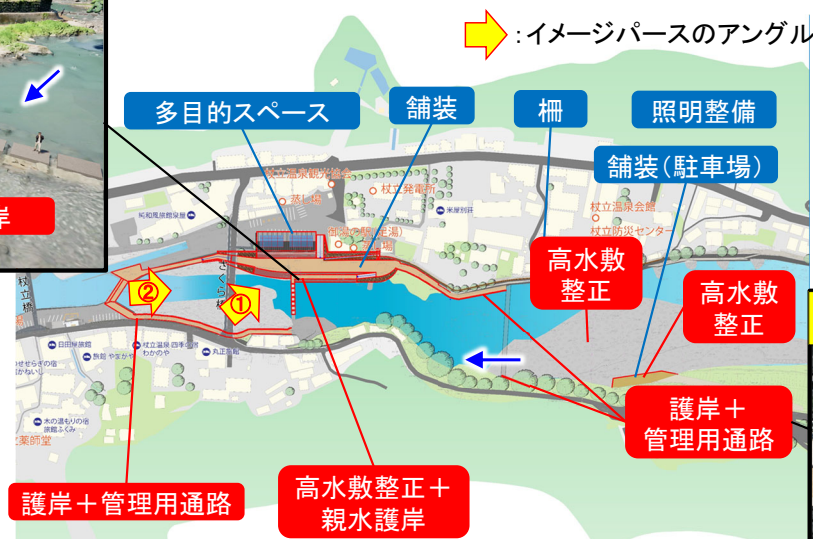
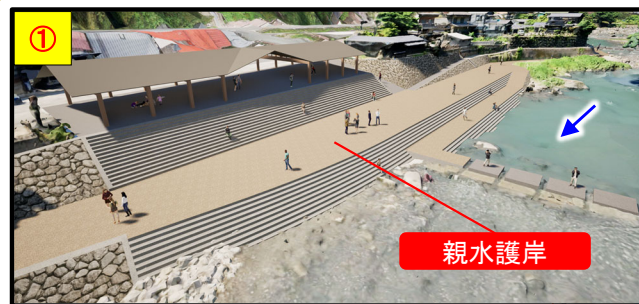
(1)事業の変更内容(新規箇所:杖立温泉(水辺整備))

杖立温泉かわまちづくり計画の登録

本工事費5.4億円

- 「杖立温泉かわまちづくり」は、令和8年8月に「かわまちづくり」制度に計画が登録された。このため、筑後川総合水系環境整備事業に「杖立温泉」を追加した。
- 本計画は、筑後川を活かした「水辺」の魅力を体験できる空間の創出を目的に、小国町のまちづくりと連携いながら、水辺整備と利活用・維持管理に取り組むものである。

整備箇所・整備イメージ



2. 事業の進捗の見込み

(2) 事業の実施状況

- 事業名 : 筑後川総合水系環境整備事業
- 計画(整備内容) : 大石地区(高水敷整正、管理用通路、坂路、モニタリング調査等)
杖立温泉(護岸、管理用通路、高水敷整正、親水護岸等)
- 総事業費 : 約14.7億円
- 事業期間 : 令和3年度から令和20年度
- 事業進捗率 : 約38.0%(事業費ベース)
- 残事業費 : 約9.1億円

(3) 今後の事業スケジュール

- 大石地区は、令和3年度に事業に着手し、令和6年度に整備完了した(令和7年度～11年度でモニタリング調査予定)。
- 杖立温泉は、令和9年度の事業着手を目指し、令和7年度に「杖立温泉かわまちづくり協議会」等を設立し、令和8年度に「かわまちづくり計画」に登録したところである。

(4) 今後の事業の進捗の見込み

- 大石地区は、平成30年度に設立された「大石かわまちづくり協議会」等により、整備箇所 の 利活用方法や維持管理の役割分担等について今後も議論していく予定であり、順調な進捗が見込まれる。
- 杖立温泉は、令和7年度に設立された協議会等により、整備箇所 の 利活用方法や維持管理の役割分担等について今後も議論していく予定であり、順調な進捗が見込まれる。

3. 主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減、代替案立案等の改善

(1) 主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画の検討

- 杖立温泉の観光振興に対する機運や賑わいある水辺空間創出に対するニーズの増大等による、杖立温泉かわまちづくり計画の新規登録に伴い、総合水系環境整備事業計画について前回評価時から変更する。

(2) 代替案の可能性の検討

- 大石地区、杖立温泉の整備内容については、計画段階から「大石かわまちづくり協議会」や「杖立温泉かわまちづくり協議会」において議論を重ねた上で、河川管理面、河川利活用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(3) コスト縮減の方策

- 大石地区では、地域が主体となった草刈りを試行する等、地域と協働の維持管理により、管理の効率化が期待されている。
- 杖立温泉では、護岸部の整備にあたっては、現地で発生した玉石などの材料を用いてコスト縮減を図る。
- 近年の技術開発の進展に伴う、新たなモニタリング手法の採用によるコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。



地域住民・うきは市による草刈り(大石地区)



発生材を用いることで現地の石積み護岸との調和を図る(杖立温泉)

対応方針(原案)

①事業の必要性に関する視点

- 大石地区においては、令和4年度～6年度に整備を行い、整備完了後は地域住民による日常利用のみでなく音楽ライブを中心としたイベントや、かわあそびイベント、ランタンフェスイベント等の会場として利用されている。整備完了後は、協議会や作業部会、実行委員会において、地域住民が主体となり利用と管理の両面を実践しているところである。
- 杖立温泉においては、豪雨被害等による安全・安心・快適な利用への課題が見られ、「水辺」の魅力を感じられる空間の創出が求められているため、水辺空間の整備が必要である。
- 費用対効果(B/C)は、**全体事業3.8、残事業5.0**である。

②事業の進捗の見込みの視点

- 大石地区においては、当初の計画から1年前倒して整備を完了し、令和6年度に整備が完了した。令和7年度からモニタリングを実施しており、**令和11年度に完了予定**である。また、整備後は継続的に社会実験を行い、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、**地域の協力体制やイベント開催が確立されている**ことから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。
- 杖立温泉においては、かわまちづくり計画に基づき、整備の詳細を検討中の段階であり、令和15年度に整備完了予定である。令和16年度以降はモニタリングを実施し、**令和20年度に完了予定**である。また、整備前から社会実験を行い、令和8年度も継続して実施予定であるため、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、**地域の協力体制やイベント開催が確立されている**ことから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

③主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減や代替案立案等の改善の視点

- 杖立温泉かわまちづくり計画の新規登録に伴い、総合水系環境整備事業計画について前回評価時から変更する。
- 地域と協働の維持管理を行いコスト縮減を図るとともに、今後もコスト縮減の方策として、新技術・発生材の活用等により、事業の効率的な推進に努める。

④対応方針(原案)

- 当該事業は、事業の必要性等に関する視点、事業の進捗の見込みの視点、主たる施設の構造等に関する事業手法や事業計画、コスト縮減、代替案立案等の改善の視点から検討した結果、**「改善継続」**が妥当であるとする。